千葉県	千葉市立幸町第二中学校

Ⅰ．学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	千葉市立幸町第二中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	３	３	４	０	１０	２１
生徒数	１１９	１０９	１２３	０	３５１	

Ⅱ．研究の概要

１．研究主題

「個を伸ばす指導法の工夫」

２．研究の内容と方法

（１）実施学年・教科

１年生・英語

小学校段階で英語学習の個人差が存在し，中学校入学後にその差を解消する必要があるため。

２年生・国語

文法・古典の学習内容が難しくなり，習熟の程度に差が現れやすい単元が増える学年であるため。

３年・数学

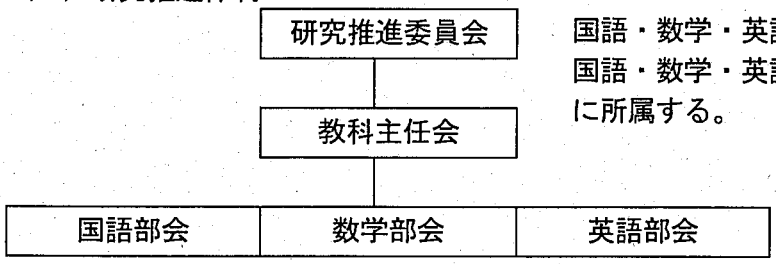
１・２年次の学習において，つまずきを持って学習に取り組んでいる生徒が多く，「努力を要する生徒」への手立てをきめ細かに行う必要があるため。

（２）年次ごとの計画

平成１５年度	○テーマ 「個を伸ばす指導法の工夫」ー国語・数学・英語科の実践を通してー ○研究の見通し（仮説） ①生徒一人一人の，目標に準拠した評価基準にあてはまる姿を明確にすれば，それぞれに必要な生徒の支援の手立てが明らかになるであろう。 ②生徒一人一人の，目標に準拠した評価基準の段階に応じた支援を行えば，効果的な学習が進められるであろう。 ③効果的な学習を行い，学習成果が定着すれば，意欲的に学習に取り組むようになるであろう。 ○研究の内容・方法 ①本校独自の評価規準表を作成し，「十分満足できる」「おおむね満足できる」生徒の姿を明確化し，さらに「努力を要する生徒」への手立てを明らかにする。 ②生徒の習熟段階に応じた指導形態の工夫を行う。 ③習熟度別学習を行う前と後に学力調査を実施し，習熟度別コース分けの資料とするとともに，事前・事後の学力の変容を比較する。 ④国語・数学・英語の教科部会に他教科の職員もそれぞれ分かれて所属し，問題作成・教材開発・問題等印刷・採点・結果集計等を分業して行う。

平成16年度	○テーマ 「個を伸ばす指導法の工夫」ー国語・数学・英語科の実践を通じてー ○研究の見通し（仮説） ①生徒一人一人の，目標に準拠した評価基準にあてはまる姿を明確にすれば，それぞれに必要な生徒の支援の手立てが明らかになるであろう。 ②生徒一人一人の，目標に準拠した評価基準の段階に応じた支援を行えば，効果的な学習が進められるであろう。 ③効果的な学習を行い，学習成果が定着すれば，意欲的に学習に取り組むようになるであろう。 ○研究の内容・方法 ①本校独自に作成した評価規準表の中で，「努力を要する生徒」への手立てをさらに具体的にする。 ②生徒の習熟段階に応じた指導形態の工夫を行い，今年度の取組にさらに積み重ねた実践を行う。

（３）研究推進体制



国語・数学・英語以外の教科担当は国語・数学・英語のいずれかの部会に所属する。

・国語・数学・英語科の担当者は，研究授業の授業者としての役割を担う。
・他教科からそれぞれの部会に所属する担当者は，生徒の学力アンケートの分析，教材・教具の作成等，授業者が研究授業に専念できるよう授業者の補助的役割を分担するように部会内での役割を決める。
・研究推進委員会は，校長・教頭・教務主任・研究主任・研究副主任・国語・数学・英語科主任で構成する。

Ⅲ．平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

（１）各教科の事前・事後の学力調査の正答率の結果比較

【　国語　】

設問の内容	事前調査	事後調査
歴史仮名遣いを現代語に直す	７８％	８８％
省略されている助詞を補う	３７％	６８％
古文の言葉を選択肢から選ぶ	９１％	７８％
古文の言葉を記述で答える	７１％	８４％
内容に関する読解	４８％	７３％

【　数学　】

設問の内容	事前調査	事後調査
変化の割合を求める	３１％	８１％
対応表からｙをｘの式で表す	５８％	９１％
関数の式をグラフに表す	６４％	８９％
ｘとｙの対応表を作る	７４％	９７％

【　英語　】

設問の内容	事前調査	事後調査
文中にあてはまる語句を選ぶ	４９％	７４％
質問文に書きかえる	６６％	７６％
否定文に書きかえる	３３％	４４％
意味を日本語で答える	２７％	４８％
指定した意味になるように書きかえる	４５％	３３％

いずれの教科においても，習熟度別学習を実施する前と後を比較すると，学力調査における正答率が伸びている。その大きな要因として，評価規準表に「努力を要する生徒への手立て」を明確にして，実際の授業場面において具体的な取り組みを行ったことがあげられる。

２．今後の課題

今年度は，２学期において各教科ともあるひとつの単元（課）に限定して習熟度別学習を実施したが，来年度に向けて１年間を通して実施する計画を立てる必要がある。限られた教員定数に対して，どの学年・どの教科・どの単元（課）で実施すればよいのかを明確にして計画することが大事になってくる。

また，習熟度別指導実施後の生徒アンケートの中に少数ではあるが習熟度別学習に対して否定的な回答をする者もいるので，さらにきめ細かな取り組みが求められてくる。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取り組み

習熟度別学習を実施する前に，事前の学力を把握するためと生徒自身にコースを選ぶ参考資料とするために学力調査を行う。また，習熟度別学習を行った後，事前の調査との比較をするために学力調査を行う。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

今年度の取り組みについて，本校のホームページに掲載する予定

【新規校・継続校】　☑１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□３学級以下　□４～６学級
□７～９学級　☑１０～１２学級
□１３～１５学級　□１６学級以上

【指導体制】　☑少人数指導　□Ｔ．Ｔ．による指導

【研究教科】　☑国語　□社会　☑数学　□理科
☑外国語　□音楽　□美術　□技術・家庭
□保健体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑ 有　□ 無